

身近な薬草

岡山 敏

(花岡町神山
元農業改良普及所長)

センブリ

利用部分(全草)

日当たりのよい丘陵、原野に自生しているリンドウ科の二年草で、葉色は青紫色を呈している。土質



▲センブリ

おい〜いがっこ

上川沿農産加工婦人部

◆かぼちゃの酒かす漬け

材	料
・かぼちゃ 1個(約1kg)	
・酒かす 500g	
・砂糖 100g	
・塩 50g	

〈作り方〉

- ① かぼちゃの皮と種をとる。
- ② 実を、食べやすいように薄く切り、塩漬けて10日間くらいおく。これを洗ってザルにあげ、水を切る。
- ③ 漬けおけの中に、練りかすと砂糖を入れ、かす床をつくる。
- ④ かす床の中に、塩漬けたかぼちゃを入れて漬け込む。

〈食べごろ〉

- ・1カ月くらいおくと食べられるが、長くおくとおいしくなる。
- ・3カ月以上おくと、酒かす500g、砂糖60g、水飴50g、塩15gの酒かす床で漬け替えをする。

〈応用と食べ方〉

- ・かぼちゃは、みそ漬けしてもおいしく食べられる。
- ・青トマトの小さいもの(うらなり)などを、同様に酒かす漬けにしてもおいしく食べられる。

キハダ

利用部分(樹内皮)

やや湿りのある山地に自生しているミカン科の落葉高木である。葉の表面は暗緑色で特有の匂いがある。また七月から八月にかけて黄色の小花が咲き、秋には青黒

色の果実をつける。薬用部の樹内皮は淡黄褐色の厚いコルク層をなし、なめると苦味があり乾燥して用いる。キハダは漢方として利用されるものはごくわずかで、おもに製薬原料としての消費が大部分を占めている。薬効は、苦味健胃剤、整腸剤のほか、樹内皮を粉末にして酢で練り合わせ、関節捻挫、関節炎などの冷湿布にも利用されている。



キハダの樹内皮

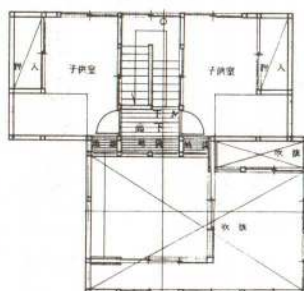
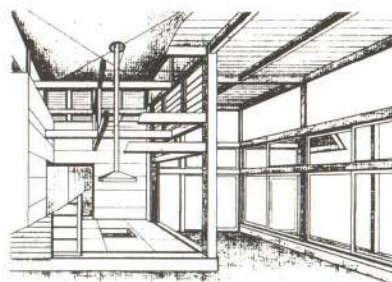
興そう伸ばそう 木目の美と香りの文化

第1回木造建築設計コンペから(最終回)

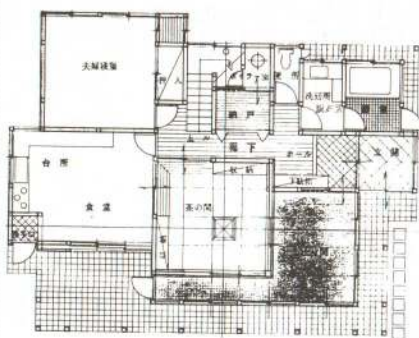
土間と囲炉裏のある家

設計者 石垣孝治さん(小茂内)

1階床面積 88,40㎡
2階床面積 31,47㎡
延床面積 119,87㎡



2階



1階

…施主との対話(設計主旨)

施主・A 設計者・B

(A) 土間と囲炉裏のある家を建てたいのですが……。

(B) 昔の民家のような感じですか。

(A) ええ、でも民家を建てようというわけではないのです。私の育った家は古い農家で、夏は涼しくてよいのですが、冬は寒く、家中ススで汚れてしまうのです。ですから、土間と囲炉裏があつて民家風だけど冬は暖かく、清潔な家がほしいのです。

(B) なぜ、土間と囲炉裏なんですか？

(A) 土間は、内でも外でもないような空間でしょう。趣味の彫刻のアトリエになるし、雨の日の日曜大工に便利なんです。それに、冬の炉端でやる酒はなんともいえませんよ。

(B) ああ、それはいい。

(A) 木とかね、土、火、水が生活の中にあつてほしいんですよ。民家の感じが好きなんです。かといって、現代の生活からかけ離れてもこまるし……。

(B) よくわかります。過去と現代の融合ですね。

◆木造建築設計コンペについては

有浦5丁目木材会館内 木造建築設計競技事務局 ☎42-1124へ